

# 北海道医歌人会詠草

## スケートボード

士別 竹内 幹夫

宙を飛び踵眼にして一閃す 姿無き翅虚空に羽搏く  
街角の流行遊びを技に磨ぎ 競ひ手集め神へと捧ぐ  
目標はみんなをあとと言わせない 純な思ひはメダルを超えて  
リラックスして滑れたので勝てました 語る笑顔はただあどけなき  
スローでしか判らぬほどの技の冴え 刹那刹那の跳びの凄さよ

## 願望

滝川 村田 英俊

この地球を取扱説明書読まずに使うなかれ 修理機材がそろそろなくなる  
書簡には願ひ溢れたりその願ひは「核保有国」が死語になること  
願ひしは秘かに育つウイルスト 共存できる日の訪れまし  
いつまでか顔半分につき合ひは 長きに亘る自粛生活  
無責任の世に居てほしい漫才師は「責任者呼べ」と言いし幸朗氏

## めでたさ

江別 三宅 浩次

めでたさは令和の御代の降る雪の松ヶ枝に積む無限の白さ  
降り摘みし雪一塊が音もなく雪の上に落つ今日も晴なり  
闇あれば光もありしこの世には迷いの中にも光を探す  
春遙か遠くもありし一筋の光求める北国の冬  
新たな年には心引き締めて要らぬものなど蹴とばしてやる

## 松

札幌 浜島 泉

歳の市門の飾りを購ふに 形よき松を見出だしかねつ  
門祝ひオンラインにて求むるに 稲穂がつきて松なしなりき  
新玉の年の始めの車には しめ縄さげの習はしありし  
落ち葉掃きドウダンツツジの紅が シラカバ溜まりの彩りとなる  
若きらが抜き去り行くを較ぶるに 我が足取りは「やはり年寄り」

## 家族

釧路 兎玉 昌彦

障害児を夫婦で支え十余年このおらかさ、やさしさは何  
くすりでは抑えきれない痙攣を一日一度は見守る歳月  
明日のこと、十年先は分からないただ手を握り共に歩むと  
車椅子おむつも乗せたワゴン車で北海道を想い出の旅  
笑顔のせ早朝の出發「元気でね」一家が残した心のぬくもり

## こき友へ

北広島 古屋雅三知

秋更けて虫の音聞こゆその先の赤らようちんの仄くらき灯火よ  
去年の秋汝と通ひし店なれど今年に語る人とても無し  
如月の我が職場に訃報あり 不慮の事故にて汝は還らじ  
高校より今に到りし悪縁はまだまだ続くと思ひしものを  
秋深し 通ひ慣れたる道なれど一人歩めば寒さ身に沁む

## 202211 淑気満つ

函館 水関 清

伸びる手に 己も伸びて抱え込み 平幕倒す横綱の技  
幼犬と幼児が 追ひつ追はれつつ ワルツを踊る初雪の頃  
進学の吾のところに 寄り添ひし 列車の窓の燈火の色  
毎年の学会で逢ふ顔映す ズーム画面に 思わずお辞儀  
寄り添ひて草食む母と仔馬見ゆ 日高本線 絵笛の窓辺